



第 82 回 (2014. 6 号)

Vengeance is Mine Inc. 「“復讐するは我にあり” 会社」 Roald Dahl

早川文庫『王女マメーリア』所載 田口俊樹訳

by 柴田耕太郎

文法力をつけたいが、無味乾燥な文法書など読みたくない。

そんな読者のために、人気小説の翻訳書に見る誤訳・悪訳をとりあげ、文法面から解説してゆく。題材は最近映画化された『チョコレート工場』の原作者で、日本がロケ地になった映画『007 は二度死ぬ』の脚本家でもあるロアルド・ダール(Roald Dahl)の短編から任意に選ぶ。いずれも原文で 10 ページ程の短いものが中心だから、読者も自分で訳してみて、この解説を参考に市販訳との優劣を競ってみてはいかがだろうか。

冒頭に誤りの種別と誤訳度を示したうえ、原文と邦訳、誤訳箇所を掲げます。どう間違っているのか見当をつけてから、解説を読んでください。パズルを解く気分で、楽しみながら英文法を学びましょう。

誤訳度：*** 致命的誤訳(原文を台無しにする)
 :** 欠陥的誤訳(原文の理解を損なう)
 :* 愛嬌的誤訳(誤差で許される範囲)

(原文 85—訳文 p686) * 可算名詞 ** 代動詞

「ウォンバーグには手痛いことだな」とジョージは言った。

「恥だね、まったく。離婚にもなりかねない。しかしこのパンタルーンってやつはこんなことを書いて、よく無事でいられるもんだ」

「いつものことだからな。むしろみんな彼を怖れてるのさ。でももしぼくがウィリアム・S・ウォンバーグなら」とジョージは言った。

‘That fixes Womberg,’ George said.

‘I think it’s a shame.’ I said. ‘That sort of thing could cause a divorce. How can this Pantaloone get away with stuff like that?’

‘He always does, they’re all scared of him. But if I was William S. Womberg,’ George said, ...

[コメント]

抽象的な(u)shame(恥)が a shame と可算名詞化され具体的なものに転化している。ここは、パンタルーンのコラムに書かれたのが「ウォンバーグにとって恥になること」。

修正訳：赤っ恥だよ

get away with は、(よくないことで)罰せられずにやりおおすこと。does はその代動詞。

修正訳：奴はいつもうまく切り抜けてるよ。

(原文 93—訳文 p690) * * 最上級

「そうなる」と彼は渋い顔で言った。「昼飯抜きだな。おれが自分でタイプをセットする

しかないからな。まあ、なんてことはないがね」そこで彼はまた笑い出した。ばかでかい小鼻がぴくぴくとひきつった。

‘For this,’ he answered gravely, ‘I will give up my lunch. I will set the type myself. It is the least I can do.’ He laughed again and the rims of his huge nostrils twitched with pleasure.

[コメント]

直訳は「それは私ができる最小限である」

修正訳：せめてそれぐらいはやってやろう

(原文 95—訳文 p691) * イディオム

これは全世界のよく知るところであります、公のものであれ私的なものであれ、不当な侮辱に対して、義憤を覚えて立ち上がろうとせず、適切な懲罰を要求、いや、強請することなく、ただ黙認することほど、アメリカ国民気質に反するものではありません。

The whole world knows that it is foreign to the nature of the American people to permit themselves to be insulted either in public or in private without rising up in righteous indignation and demanding —nay, exacting—a just measure of retribution.

[コメント]

in public 公に、in private 内密に

修正訳：公然とであれ個人的にであれ、なされる

(原文 98—訳文 p693) * * 形容詞

「そいつが言うには、パンタルーンは、毎日だいたい規則的な暮らしをしているということだ。夜に仕事をするんだな。でもどんなに早い時間に出かけても、彼はいつも—いいか、

ここが重要なんだ—彼はいつも最後には<ペンギン・クラブ>に立ち寄るそうだ。…」
‘He said Pantaloon’s movements are more or less routine. He operates at night, but wherever he goes earlier in the evening, he *always*—and this is the important point—
he *always* finishes up at the Penguin Club. …’

[コメント]

earlier は、現在もしくは問題となっている時刻より早めに、の意。元訳は比較の対象時間が見えない。比べているのは、ペンギン・クラブへ行く時間とではないか。wherever は譲歩で、どこに…とも。

修正訳： **それまでどこに行っていようとも**

(原文 100—訳文 p694) * 副詞句

まず—から始め、それがうまくいくようなら、リストに書いてある順に全部やったださ
るよう注文致します。

Start with Item 1, and if you are successful I’ll be only too glad to give you an order to
work right on through the list.

[コメント]

work は自動詞で、機能する。right は副詞で、すっかり。on は副詞で、ずっと。through
は前置詞で、前面に渡って（貫通）。順番でなく、全部やれと言っている。

修正訳： **リストの全項目をつつがなくお願いしましょう。**

(原文 114—訳文 p701) * 名詞

「パーム・ビーチに家を買って、豪勢に客をもてなそうぜ。ぼくらの家のプールには、上流階級の可愛い子ちゃんが集まっててさ、冷たい飲みものなんか飲んだりして、プールサ
イドでごろごろしてるんだ。

‘We will have a house at Palm Beach,’ he says, ‘and we will entertain upon a lavish
scale. Beautiful socialistes will loll around the edge of our swimming pool sipping cool
drinks, …’

[コメント]

「可愛い子ちゃん」では蓮っ葉すぎないか。socialite は、社交界の紳士、淑女。

修正訳： **社交界の花形**

（原文 114—訳文 p701） 代名詞**

「…。そんなふうになったら、いつかはライオネル・パンタルーンのコラムに、載るようになるかもしれないな」

「そうなりやちよつとしたもんだな」とぼくは言った。

「ああ、まったく」とジョージは嬉しそうに答えた。「そうなりやちよつとしたもんだよ」

‘... and perhaps, in time to come, perhaps we might even get ourselves mentioned in Lionel Pantaloon’s column.’

‘That would be something,’ I said.

‘Wouldn’t it just,’ he answered happily. ‘Wouldn’t that just be something.’

[コメント]

代名詞は誰もがおろそかにしやすいものだが、とても大事だ。

ここ正確に読まないで、オチがつきにくい。

代名詞の原則：

that は、直前のものを指す

this は、直前、直後のものを指す

it は、今文中で問題になっていることを指す。it のほうが that, this より抽象度が高い。

これを上記の文にあてはめる。

最初の that は、前節 perhaps we might even get ourselves mentioned in Lionel Pantaloon’s column. (俺たち自身が、ライオネルのコラムに取り上げられるかもしれない)。

次の it は、That would be something.(そうならすごいぜ)を受ける。

最後の that は、最初の that と同じものを指す。

Wouldn’t it は、否定疑問文の反語。just は強調。例：How angry would he be? Wouldn’t he just! 「どれぐらい奴、怒るかな」「怒るの怒らないのって！」。something は、大したこと。

修正訳：「そのうちよ、俺たち自身が奴のコラムに載るかも知れねえぜ」

「載ったらすげえな」

「すごいすごくないのって」彼は嬉しそうに答えた。「そりゃもう大変さ」